（1） 焼却再稼働後のごみの分別について

資料6-①

■プラスチック資源循環促進法への対応　令和3年6月4日成立

＜関連内容＞

○市区町村の分別収集・再商品化

現行

ごみ	燃やせるごみ
	燃やせないごみ
資源物など	剪定枝・竹・草
	プラマーク
	白色トレイ
	ペットボトル
	飲料水缶
	びん
	ｽﾌﾟﾚｰ缶・ﾗｲﾀｰ・ｶｾｯﾄﾎﾞﾝﾍﾞ
	乾電池

案1　当初焼却再開の計画

ごみ	燃やせるごみ
	剪定枝・竹・草
	プラマーク
	白色トレイ
	燃やせないごみ
資源物など	ペットボトル
	飲料水缶
	びん
	ｽﾌﾟﾚｰ缶・ﾗｲﾀｰ・ｶｾｯﾄﾎﾞﾝﾍﾞ
	乾電池

または

案2　プラ新法対応案

ごみ	燃やせるごみ
	剪定枝・竹・草
	燃やせないごみ
資源物など	プラマーク
	白色トレイ
	ペットボトル
	飲料水缶
	びん
	ｽﾌﾟﾚｰ缶・ﾗｲﾀｰ・ｶｾｯﾄﾎﾞﾝﾍﾞ
	乾電池

※案1を検討しているが、新法の制定に伴い案2の分別となる可能性がある。

（2） ごみの出し方について

資料6-②

検討内容	意見の概要
排出日：ごみ・資源物ともに指定された収集日当日　朝8時まで	マナー面を考えると湖西地区の常時出せるのもどうかと思う。
	新居地区に住んでいるが収集頻度について特に困っていない。
	常時出せる方が当然ありがたいが、指定日が決まっていればメリハリがつく。いつでも出せるとごみ減量の意識が低下してしまう。
	曜日を決めてごみカレンダーで周知するのが効果的。
	資源物の収集日が月1.2回になるのはきびしい。
	仕事や旅行の都合により当日朝に出せないこともある。

現在		排出日	
		湖西地区	新居地区
ごみ	燃やせるごみ	週2回	
	燃やせないごみ	隔週1回	
資源物など	剪定枝・竹・草		
	プラマーク品	常時	週1回
	白色トレイ		
	ペットボトル		
	飲料水缶		隔週1回
	びん		
	スプレー缶・ライター カセットボンベ		
	乾電池		月1回

変更後		排出日 市内統一
燃やせるごみ		週2回
	剪定枝・竹・草	
	プラマーク品	
	白色トレイ	
燃やせないごみ		隔週1回
ペットボトル		週1回
飲料水缶		隔週1回
びん		
スプレー缶・ライター カセットボンベ		
乾電池		

（2） ごみの出し方について

資料6-③

検討内容

排出方法・排出場所：

排出場所	現在	案1		案2
資源物の排出方法	大型コンテナ・ネット併用	ポリ袋		コンテナ・ネット併用
ごみ	ごみステーション 湖西地区　500か所 新居地区　200か所	ごみステーション 湖西地区　500か所 新居地区　200か所	または	ごみステーション 湖西地区　500か所 新居地区　200か所
資源物など	資源物回収拠点 湖西地区　100か所+α 一部のごみステーション 新居地区　100か所+α			一部のごみステーション 湖西地区　100か所+α 新居地区　100か所+α

指定袋の種類・サイズ：

現在		
燃やせるごみ袋	20ℓ	30ℓ
燃やせないごみ袋	20ℓ	30ℓ

変更後			
燃やせるごみ・燃やせないごみ共通袋	20ℓ	30ℓ	45ℓ

意見の概要

- コストが上がるのは元も子もない。
- 高齢者が資源物回収拠点まで行くのが大変なので考慮して欲しい。
- 資源物の収集曜日や時間が決まってしまうと大変。現在の湖西地区の制度は助かっている。
- 大型コンテナによる常時排出をやめることは騒音対策や強風時の危険回避対策となることから賛成。
- 投入口のひもが高齢者には長すぎるため、仕様を見直してほしい。
- 新居地区ではポリ袋に入れてステーションまで持ち込み、網袋に入れ替えてるので、そのまま袋で出せると入れ替える手間が省ける。
- ペットボトルの収集日が週1回しかないので、網袋がいっぱいになり入らないことがある。網袋の設置数を増やしてほしい。
- 45Lを導入してもらえれば非常に便利。小さい袋はやめて製造コストを削減してはどうか。
- 剪定枝を入れるため袋の強度をあげてほしい。厚手の袋を検討してはどうか。
- 袋の色分けは継続してほしい。
- 45Lを導入した際、売れない袋が出てくると思うので可燃ごみの袋を1種類にする方がいいと思う。

（3） ごみの減量について

資料6-④

項目	意見の概要
家庭ごみの減量	キエーロを活用することに有効性を感じる。広報誌、ウェブサイトでのPRに力を入れるべき。
	夏場は生ごみの臭いがひどいので、水切りを徹底するよう強く呼びかけてほしい。
	使わない野菜は乾燥させて保存食にするなどの取り組みを広報等で紹介してはどうか。
	市の栄養士と協力して捨てられる部位（ブロッコリー、キャベツの芯など）を利用したメニューを考案し、食品ロス対策メニューを広報誌で紹介してはどうか。
	食べないと思った食品をフードバンクに提供したことがある。啓発してはどうか。
	子ども会の集団回収を活性化させると紙ごみの減量につながると思うが、子どもの数が減っているため、現在の活動を継続することで精いっぱい。
	粗大ごみの活用や再利用ができるフリーマーケットのような機会を設けることはできないか。
事業系ごみの減量	他市の調査では家庭系ごみと混合しごみステーションに出している実態があるということが分かっている。
	ごみ処理業者から分別しなくていいといわれたことがある。許可業者への指導が必要。

（4） 環境センターへの持ち込みについて

項目	意見の概要
少量ごみの持ち込み対策	少量のごみは原則ステーションを利用してもらい、持ち込みを減らすため最低料金の設定は有効ではないか。
	ごみを捨てるのにもお金を取られる意識を持ってもらう必要がある。
搬入車両台数の規制策	事前予約による方法が有効。
	予約方法について高齢者への配慮が必要。

（5） ごみ出しのマナーについて

資料6-⑤

項目	意見の概要
ごみ出し当番	既に地域のステーションで実施しているが、違反ごみが減った実感はある。
	時間外に出される違反ごみに対して効果が無く、違反ごみも時間外に出されることが多い。
ごみ分別アプリ	ごみの通知が来ることがありがたい。外国語に対応していることもありがたい。
	ごみ出しルールを知らない転入者や外国人へのアプローチが必要。
	存在を知らない人も多いと思う。
地域でのごみステーション管理	各自治会で取り組んでいる内容を共有できる仕組みがあればよい。
	住んでいる地域では住民で順番に担当している。
	マナーがいいので当番等は特に定めていない。
	県内では当番制で管理する自治体が多い。
違反ごみの対策	違反ごみを出す人の意識を変えるために記名式のごみ袋も必要なのではないか。
	記名式はプライバシーが守られない恐れがある。
	ステーション管理は組長が行っていて、違反があれば写真を撮って回覧している。
	警告シールを貼り一定期間ごみステーションに置き、違反者に周知し、自覚させるためにも必要。
	年末年始のごみを出せない時期にステーションにカギをかけたり看板が設置した事がある。
	防犯灯など明かりが近くにあり、ステーションが照らされていることで夜間に出す人が減ると思う。センサーライトなども有効ではないか。
	監視カメラを設置することも有効ではないか。